

川越市地域自立支援協議会 会議録

会議の名称		令和6年度 第1回 川越市地域自立支援協議会 全体会					
開催年月日		令和6年5月24日（金） 10時30分～11時40分					
開催場所		川越市民サービスステーション会議室					
出席者（委員） 氏名（人数）		高橋 幸裕	座長	種子 幸奈	委員		
		阿部 浩一	委員	内山 智裕	委員		
		高梨 雅子	委員	金本 徳夫	委員		
		水見 哲也	委員	吉田 将史	委員		
		遠藤 政子	委員	溝井 啓子	委員		
		野沢 桂子	委員	原 恭子	委員		
		岩間 亜希	委員	八木 大介	委員		
		柳沢 真理子	委員	小林 幸路	委員		
		神田 純徳	委員	戸澤 毅氏（西川祐一委員代理）			
						（計18人）	
欠席者（委員） 氏名（人数）		大類 由佳	委員	檜村 千寛	委員		
						（計2人）	
出席者（関係者）		社会福祉法人 皆の郷		金澤 昌敏			
		障害者総合相談支援センター					
		（障害者等相談支援事業 委託相談員）					
		新津 重隆	宮田 一久	水沼 友美	名取 奈美		
		茂木 将史	島野 直哉	田中 千恵美			
						（計8人）	
事務局職員 職 氏名		障害者総合相談支援センター		所 長	新井 融		
				主 査	石曾根 成広		
				主事補	大木 愛美		
会議次第	1	開会					
	2	委員及び関係者紹介					
	3	相談支援事業等の実施状況について					
	4	議題					
		(1) 令和5年度活動報告及び令和6年度協議概要（案）について					
	5	その他					
	6	閉会					
配布資料		・ 会議次第 ・ 資料1 川越市地域自立支援協議会委員名簿 ・ 資料2 相談支援事業等の実施状況について ・ 資料3 令和5年度個別部会活動報告 令和6年度個別部会協議概要（案）					

議事内容	
発言者	議題・発言内容
事務局	1 開会
	2 委員及び関係者紹介（資料 1） 委員の改選に伴い、委員及び関係者が自己紹介を行う。 <u>○令和 6 年度より 4 名の委員が変更となった。</u> ・種子 幸奈 委員←大森 三起子氏 ・小林 幸路 委員←金澤 昌敏氏 ・野沢 桂子 委員←吉澤 眞佐子氏 ・神田 純徳 委員←関 隆文氏
	3 相談支援事業等の実施状況について（資料 2） 資料 2 に基づき概要を説明 <u>○「障害者等相談支援事業」の相談件数等について</u> （推移）令和 5 年度の障害者等相談支援事業の相談総件数は 7,033 件、相談実人数は 840 人となっており、ほぼ例年通りに推移している。相談件数内訳については、電話等の相談が一番多く、次いで訪問による相談が多くなっている。 （特徴）令和 3 年度の相談件数が突出して多くなっているが、これについては、令和 2 年 6 月に現障害者総合相談支援センターの各事業が U__PLACE に移転・統合し、その周知が図られてきたことや、令和 3 年度末で委託相談員 2 名が退職することに伴い、引継ぎの訪問・電話等が増加したことなどが要因と考えられる。
	<u>○「川越市障害者虐待防止センター」の相談通報件数について</u> （推移）令和 5 年度の相談通報件数は 71 件となっており、ほぼ例年と変わらず推移している。 （特徴）令和 4 年度の相談・通報件数が減少した主な理由としては、虐待通報以外の生活相談や困りごとなどの相談が減少したためと考えられる。
	<u>○「計画相談支援」の支給決定者数、セルフプラン率等について</u> （推移）令和 5 年度の支給決定者数は 2,659 件となっている。うちサービス等利用計画作成済は 1,895 件、セルフプランは 764 件で、セルフプラン率は 28.7%となっている。 （特徴）支給決定者数は年々増加傾向であり、支援を必要とする障害者へのサービス利用の周知が進んでいると考えられる。

	一方、セルフプラン率が微増している状況については、支給決定者数の増加に対し、指定特定相談支援事業所及び相談支援専門員が充足していない状況が課題であることが見受けられる。 ○「障害児相談支援」の支給決定数、セルフプラン率等について （推移）令和５年度の支給決定児数は 1,163 件となっている。うち障害児支援利用計画は 363 件、セルフプランは 800 件で、セルフプラン率は 68.8%となっている。 （特徴）支給決定児数は年々増加傾向であり、支援を必要とする障害児へのサービス利用の周知が進んでいると考えられる。また、セルフプラン率については、徐々に改善されつつあるものの、計画相談支援同様、指定特定相談支援事業所及び相談支援専門員が充足していない状況が課題であることが見受けられる。
相談員	【補足説明】 相談件数の推移の変化は少ないが、相談員の人数が令和３年度以降に 9 名となったため、相談員の負担感は増している。そのほか、福祉サービスに繋がらないケースが、例年 200 件程度であったことに対し、令和５年度は 250 件と増加している。主な理由としては、相談者とサービス提供者との関係の不和や引きこもり等で福祉サービスに繋ぐことが困難であることなどが挙げられる。
委員	意見等なし
	4 議題 (1) 令和５年度活動報告及び令和６年度協議概要（案）について（資料３）
	【令和５年度 個別部会活動報告】
事務局	○仕事・活動部会 資料３に基づき概要を説明。
委員	意見等なし

部会長	<u>○まちづくり部会</u> 資料 3 に基づき概要を説明。
相談員	[補足説明] 出所後の受け入れ先を探すなど、緊急保護等の支援事例は多岐に渡っているため、地域生活支援拠点については面的な整備が必要であると考ええる。 グループホームは、短期入所を併設している事業所が多くあるため、緊急時の受け入れ先としての役割を担っている。一方で、ひとつの事業所で長期間の短期入所の利用は困難であることから、川越市内及び近隣市町村の短期入所の利用を転々とする事例もあり、利用者に大きな負担がかかっている現状がある。
部会長	<u>○こども部会</u> 資料 3 に基づき概要を説明。
相談員	[補足説明] 強度行動障害のある児童の受け入れ先が少ないと感じている。また、受け入れ後に支援に苦慮し、結果的に受け入れ困難となる事例もある。放課後等デイサービスの 1 事業所が閉鎖したとの情報もあり、運営上の厳しさもあるのかもしれない。
相談員	発達障害のあるこどもを育てる親が抱える悩みの受け止め先や、家族全体をどう支えていくかが課題であると考ええる。
事務局	<u>○地域移行部会</u> 資料 3 に基づき概要を説明。
相談員	[補足説明] グループホームの事業形態としては、日中サービス支援型以外に介護包括型のグループホームもある。コロナ禍以前には事業形態の異なる各グループホームとの連絡会があると良い、という意見があったため、今後検討していきたい。

事務局	グループホームは地域移行の社会資源のひとつとして重要であり、グループホームと相談員間の目線の統一が必要であると考え。また、日中サービス支援型グループホームの評価については、今後まちづくり部会とも協働して検討していきたい。 【令和6年度協議概要（案）について】 資料3に基づき概要を説明。 各部会の令和6年度協議概要案の具体的内容、進め方などについては、今後開催される各個別部会内において、参画委員及び関係者の御意見をいただきながら、詳細を決定していく予定であることをご承知おきいただきたい。 <u>○仕事活動部会</u> (1) 個別事例及び支援体制に関する課題についての情報共有 就労又は余暇に関する個別の事例をもとに、その課題等について、情報共有を図っていく。 (2) 就労支援体制に係る関係機関との情報共有及び連携 就労支援体制の整備に当たり、仕事活動部会に参画いただいている各委員の所属はもとより、その他の関係機関についても、必要に応じて当部会へ参画いただくなどにより、情報共有及び連携を強化していく。 (3) アンケート等を活用した障害者等の余暇活動の場の協議 令和4年度に実施した「学生の余暇活動に関するアンケート」を例として、障害のある方々の余暇に関する実態を把握し、どのような活動の場が望まれるかなどについて協議していく。 <u>○まちづくり部会</u> (1) 個別事例及び支援体制に関する課題についての情報共有 権利擁護又は障害者虐待などに関する個別の事例をもとに、その課題等について、情報共有を図っていく。 (2) 相談支援体制の推進に係る協議 委託相談、計画相談などに関わる、市内の相談員の連携強化や人材育成など、本市の相談支援体制の推進に関連する、様々
-----	---

	な事項について協議を実施していく。 (3) 地域生活支援拠点及び日中サービス支援型指定共同生活援助事業の検証と評価 昨年度のまちづくり部会で御意見いただいたとおり、評価方法及び評価の実施体制について今後検討していきたい。 ○こども部会 (1) 個別事例及び支援体制に関する課題についての情報共有 障害児に関する個別の事例をもとに、その課題等について、情報共有を図っていく。 (2) 障害児の支援に係る協議 (1) で説明した、個別事例に関する課題の情報共有に加え、支援課題や地域課題に対する改善策などについて協議を実施していく。 (3) 医療的ケア児の支援に係る協議 昨年度の自立支援協議会全体会で承認いただいたとおり、医療的ケア児の支援に係る協議の場として、こども部会を位置付けている。昨年度に協議が開始された事項ではあるが、各関係課と連携のもと、医療的ケア児の支援に関する様々な事項について協議を実施していく。 ○地域移行部会 (1) 個別事例及び支援体制に関する課題についての情報共有 精神科病院からの退院に関する個別の事例をもとに、その課題等について、情報共有を図っていく。 (2) 地域移行支援モデルケースについての情報共有 (1) の事例について、その支援経過について確認し、支援課題や地域課題などについて、情報共有を図っていく。 (3) 精神障害者にも対応した地域包括ケアシステムに係る協議 昨年度の自立支援協議会全体会で承認いただいたとおり、精神障害者にも対応した地域包括ケアシステムに係る協議の場と
--	---

	して、地域移行部会を位置付けている。昨年度に協議が開始された事項ではあるが、各関係課と連携のもと、精神障害者にも対応した地域包括ケアシステムに関する様々な事項について協議を実施していく。
部会長	[委員意見等] 資料2の「計画相談支援」におけるセルフプラン率が増加している要因のひとつとして、委託相談から計画相談に繋ぐことのできない現状があるとのことであった。また、計画相談事業所数及び相談支援専門員の人数が大きく増えていないことが影響していると考えられる。 令和6年度の障害福祉サービス等報酬改定について、計画相談支援給付費の機能強化型サービス利用支援費の加算算定要件等において、「自立支援協議会への参画」が新たに規定された。そのため、自立支援協議会と指定特定相談支援事業所との連携のあり方、計画相談支援事業所の経営の安定を図るための方策、地域生活支援拠点との連携などについて、まちづくり部会において検討していきたい。
委員	まちづくり部会の名称は活動内容に合っていないのではないかと。「くらし・相談支援部会」がより適切と考えられるため、検討いただきたい。
事務局	今後の協議会又は個別部会で検討していきたい。
委員	来年度から「就労選択支援事業」が新たに開始することとされている。対象者は就労継続支援事業や就労移行支援事業の利用を希望する方々等と示されている。 就労選択支援事業の創設は就労関係のみならず、計画相談等にも関わってくる内容であり、また、最近は特に、就労移行支援を利用して就労を目指す利用者也増えてきている状況がある。 今後、就労選択支援については、市と調整のうえ、地域の事業者に対する利用方法の説明なども必要と思われる。また、仕事活動部会に就労関連の福祉サービス事業所職員が参画していくことについても検討されたい。

委員	川越市障害者支援計画において、障害者支援施設入所者の地域移行について、令和6年度から8年度までの間に18名の数値目標が設定されている。施設入所者の地域移行についても自立支援協議会で検討するのか、又は別の協議の場で検討していくのかを確認したい。
事務局	地域移行部会では、精神障害者の精神科病院からの退院における地域移行支援について特化した協議を実施している。 障害者支援施設からの退所も地域移行支援の対象であるため、どのように推進していくかについて障害者支援計画の内容を再度把握し、担当課等と確認していきたい。 5 その他 なし 6 閉会
事務局	閉会后、第1回個別部会の日程調整を行った。 日程は以下のとおり決定した。 ○仕事・活動部会 8月1日（木）10時30分から ○地域移行部会 8月2日（金）10時30分から ○まちづくり部会 8月6日（火）10時30分から ○こども部会 8月9日（金）15時00分から 以上